

病気以外の子どもの死亡原因で、窒息が上位を占めているのをご存知でしょうか。リンゴやうすらの卵が気管支に入って窒息した事故が記憶に新しいと思います。

まだ首が座っておらず、寝返りができない小さい子どもは、クッションや枕、そして寝具など、眠っているときに周りにあるものが原因で窒息してしまいます。普段、寝かしつけるために使っているもので子どもが窒息してしまうことは、想像できないかもしれません。

1歳以上になると、食物や小さなおもちゃなどを喉に詰まらせて息ができなくなることが多くなります。4歳以下のお子さんには、ミニトマトやブドウなどは1/4にカットしてあげましょう。

子どもが、息をしていない、息ができていないと思ったら、すぐに救急車を呼びましょう。



不慮の事故の詳細（こども家庭庁 2024 年 12 月）

	第1位	第2位	第3位	第4位	第5位
0歳	窒息(ベッド内)	窒息(吐物)	窒息(詳細不明)	窒息(その他)	窒息(食物)、交通事故
1歳	交通事故	溺水(浴槽内)	窒息(食物)	窒息(吐物)	窒息(その他)
2歳	交通事故	窒息(食物)	転落、窒息(吐物)		溺水(浴槽内)
3歳	交通事故	溺水(浴槽内)	溺水(自然)、窒息(吐物)		窒息(その他)、熱中症
4歳	交通事故	転落	溺水(その他)	溺水(浴槽内)、窒息(吐物、食物)、火災	

【家庭での対処法】



呼吸ができる

落ち着いて救急車を呼びましょう



呼吸ができない

救急車を呼んで、以下の応急処置をおこないます

1歳未満

背部叩打法 + 胸部突き上げ法



1歳以上

ハイムリック法



呼吸もなく、呼びかけても反応がない

救急車を呼んで
すぐに心肺蘇生を行いましょう